

白根市文化財調査報告(3)

平成16年度
白根市内埋蔵文化財試掘調査報告書
付・平成13年度～15年度調査報告

2005

白根市教育委員会

序

新潟平野の中央部に位置する白根市は、周囲を信濃川と中ノ口川に囲まれた水郷地帯です。

現在でこそ美田が一面に広がる田園都市ですが、江戸時代以前は、多くの潟や沼が存在し、葦が一面に繁茂する茫洋の地であったと言われていました。また、この地を囲むように流れる信濃川と中ノ口川は、大水の度に破堤を繰り返す暴れ川でもありました。白根郷の人々は常に洪水と隣り合わせの中で生きる宿命を背負っていたのです。

先人達はこのような悪条件の中で、洪水と闘いながら荒れた大地を切り開き、葦沼を耕地に変え、広大な水田をつくりあげました。現在の当市の繁栄は、まさに先人たちの努力の結果と言えましょう。

さて、昨今新潟平野のあちこちで沖積低地から遺跡の発見が相次いでいます。これまで不毛の地であり、遺跡が少ないと考えられていた新潟平野ですが、水田下にも昔の人々の生活痕跡が埋没していることが明らかになりつつあります。

当市におきましても、昭和58年の庄瀬地区における馬場屋敷下層遺跡の発見により、鎌倉時代までその歴史が溯ることが判明しました。平成14年には、戸頭の浦廻遺跡で鎌倉時代の葬送に関係すると思われる発見がなされ、中世史の解明に一石を投じております。

文化財は国民共有の財産であると共に、郷土の歴史を語る貴重な語り部でもあります。本報告書が、郷土の歴史・文化を解明する一助となれば幸いです。

最後に、格別なるご指導・ご協力を賜った新潟県教育庁文化行政課をはじめ調査に従事されました作業員各位ならびに調査にご理解・ご協力をいただいた関係機関・事業者・地権者及び工事関係者に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

白根市教育委員会

教育長 栗林貞義

例 言

1. 本報告書は、平成13～平成16年度にかけて白根市内において各種開発等に伴い実施した試掘・確認調査の記録である。
2. これらの調査は、白根市教育委員会が文化財保護事業として実施しているものである。
3. 調査に関する経費は、平成13年度および平成15年度については市の単独事業として実施し、平成16年度については国庫および県費補助を受けた。
4. 調査は白根市教育委員会が主体となり実施した。調査体制は以下のとおりである。

平成13年度

調査主体	白根市教育委員会	教育長 栗林貞義
総括	同	生涯学習課長 高橋直廣
管理	同	生涯学習課長補佐 長谷力男
庶務	同	生涯学習課生涯学習推進係長 山田久美子
調査担当	新潟県教育庁文化行政課	国島 聡・波多野 孝

平成14年度

調査主体	白根市教育委員会	教育長 栗林貞義
総括	同	生涯学習課長 藤原照夫
管理	同	生涯学習課長補佐 高井要一
庶務	同	生涯学習課生涯学習推進係長 山田久美子
調査担当	同	生涯学習課生涯学習推進係主事 潮田憲幸

平成15年度

調査主体	白根市教育委員会	教育長 栗林貞義
総括	同	生涯学習課長 藤原照夫
管理	同	生涯学習課長補佐 高井要一
庶務	同	生涯学習課生涯学習推進係長 渡辺一也
調査担当	同	生涯学習課生涯学習推進係主事 潮田憲幸

平成16年度

調査主体	白根市教育委員会	教育長 栗林貞義
総括	同	生涯学習課長 坂井治一
管理	同	生涯学習課長補佐 高井要一
庶務	同	生涯学習課生涯学習推進係長 渡辺一也
調査担当	同	生涯学習課生涯学習推進係主事 潮田憲幸
整理作業補助	同	生涯学習課臨時職員 本間初美

5. 調査により出土した遺物および図面・写真等の記録は白根市教育委員会が一括して保管している。
6. 本報告書の執筆および編集はすべて潮田が行った。
7. 本書で示す方位はすべて真北である。
8. 発掘調査から本書の作成にあたり、下記の諸氏、機関から多大なご指導、ご協力を賜った。厚く御礼申し上げる（敬称略・個人名は五十音順。機関名は順不同。機関等の名称は調査当時のもの）。
井部和夫 織笠 昭 春日真実 加藤 学 金子優子 小林磐雄 小澤美和子 斎藤秀樹 関根喜八郎
滝沢規朗 高橋保雄 立木宏明 水澤幸一 渡辺 亨 吉田晃章
白根測量設計株式会社 有限会社小林組 有限会社皆川重機工事 株式会社小林商会
株式会社タナハシ 児玉組 新祐興業株式会社 山井建設株式会社 社会福祉法人 ごせん福祉会
新潟県教育庁文化行政課 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 国土交通省信濃川下流河川事務所
農林水産省北陸農政局白根郷農地防災事務所 白根市都市建設課 白根市ガス水道局

目次

I 章 序説	
白根市の地形環境と遺跡立地	1
II 章 調査概要	6
1 北田中地区／北部中継ポンプ場建設に伴う試掘調査	
2 戸頭・田中地区(前遺跡)／複合大型店舗建設に伴う試掘調査	
3 万年地区／広域農道新設に伴う試掘調査	
4 戸頭地区／集合住宅建設に伴う試掘調査	
5 上新田地区／工場および駐車場新設に伴う試掘調査	
6 新飯田地区／特別養護老人ホーム建設に伴う試掘調査	
7 上下諏訪木地区／複合大型店舗建設に伴う試掘調査	
8 大郷地区／堤防拡幅に伴う試掘調査	
9 白根地区／住宅地造成に伴う試掘調査	
10 茨曾根地区(拾参番割遺跡)／駐車場新設にともなう試掘調査	
11 下塩俵地区／河道掘削にともなう試掘調査	
III 章 おわりに	22
引用・参考文献	23

I 章 序 説

1. 白根市の地形環境

新潟平野の中央部に位置する白根市は、東西約5.6km、南北約19.2kmの細長い形状をなし、面積77.06km²を測る。北は新潟市、東は新潟市・小須戸町・田上町、西は味方村・月海村・中之口村、南は燕市・三条市・加茂市に接している。市内には幹線国道である国道8号が縦貫し、新潟―三条方面を結び重要な交通路となっている。8号線は市の中央部で国道460号線と交わり、新津―巻方面と連絡する。

標高は最高5.5m、最低-0.23mで、最南部の新飯田地区から北東に向かって徐々に傾斜している。地質は河川が運搬した土砂が堆積して形成された沖積層からなり、地形は大きく自然堤防と後背低地に分けられ、古くからの集落はおおむね自然堤防上に立地する(第2図、第3図)。

自然堤防は主に信濃川、中ノ口川および旧笠巻川(註1)沿いに連続して認められる。信濃川沿いで特に発達し、両河川の間には広大な後背低地が広がっている。自然堤防の分布は市の南部で密、北部で粗となる。

南部では信濃川と中ノ口川の間を縦貫するように連続した分布が認められ、旧河道の名残を比較的良好とどめている。北部の自然堤防は主に中ノ口川、信濃川および旧笠巻川沿いに分布しているが、中ノ口川の自然堤防の発達は弱い。信濃川と旧笠巻川の自然堤防は発達が比較的良好で、市の北東部は比較的起伏に富んだ地形となっている(第2図)。内部には島状の自然堤防の分布が若干見られるが、南部と比べて発達が弱く、連続性も認められない。

後背低地は、一般に低湿・低平で水はげが悪いため、居住には適さず、主に水田として利用されている。横断面で見ると信濃川・中ノ口川から市の内部に向かって凹レンズ状の断面を呈しており、内水が集まり易い地形となっている。このような条件により、市の内部には数多くの潟湖が形成されることとなる。大きなものでは白根、白井、小林地区にまたがる白蓮湖、根岸地区の太婦湖、大塚地区の大潟、茨曾根地区の道潟などがある(第3図)が、この他にも大小無数の潟・沼が存在していたことが『白根市史』『中蒲原郡誌』等の記述からわかる。潟湖は農業用水の取水や漁場としてだけでなく、内水面交通路としても利用されており、周辺の住民にとって重要な資源でもあった。これらの潟や沼は江戸時代末までにほぼ干拓され、昭和以降の耕地整理と乾田化の進行により、大半が姿を消している。

2. 市内の遺跡とその立地

白根市では平成17年3月1日現在、19か所の遺跡が周知されている(第1表)。最古の遺跡は平安時代までさかのぼるが、詳細が判明しているのは、本格的な調査が行なわれた庄瀬地区の馬場屋敷遺跡(鎌倉後期、室町～戦国)、興野遺跡、若宮様遺跡(いずれも室町～戦国)、戸頭の蒲廻遺跡(鎌倉～南北朝)、馬場屋敷の塚(江戸)の5遺跡である。

遺跡は、そのほとんどが自然堤防もしくはその縁辺に位置している。自然堤防上の遺跡は包含層までの深度が比較的浅く、分布調査によって確認しえる。馬場屋敷遺跡、若宮様遺跡(第2図)などの室町以降の遺跡は田面から数10cm程度で遺構を確認しえるが、馬場屋敷遺跡では鎌倉後期の生活面が室町時代の面の1.5m下から発見されており、複数の時期にわたって遺跡が営まれていたことが判明している(註2)。

後背低地は、ほとんどが圃場整備された水田であるため、表面観察による遺跡の発見が極めて困難である。

蒲廻遺跡(第2図No15)、拾参番割遺跡(第2図No19)は水田下1.5～2mで発見されており、沖積層下に未発見の遺跡が存在する可能性を示唆している。また、拾参番割遺跡では後背低地にありながら地下で安定した土壌が確認されるなど、地表面観察では予想しえない地形の存在も明らかになっている。

3. 歴史的環境

1) 縄文時代

縄文時代の遺跡は白根市では発見されておらず、当時の状況は不明である。新潟砂丘上には縄文早期からの遺跡が分布しており、新潟市の場遺跡・緒立遺跡(旧黒崎町)では本格的な発掘調査が行なわれ〔渡邊1994、1998〕、縄文晩期のまとまった資料が得られているが、砂丘の背後の広大な沖積低地での人間活動については不明な部分が多い。

味方村味方排水機場遺跡では昭和30年代に排水機場を掘削した際に地下20mから縄文中期後半と思われる土器片がまとまって出土した記録がある〔高浜ほか2002〕。新潟平野の古地理の復元についてはト部厚志らの研究に詳しい〔ト部ほか2002〕が、それによれば縄文中期後半に遺跡付近は陸化していた可能性が高いとされる。味方排水機場遺跡の事例は、縄文時代の地形・環境を考える資料として、今後も検討されるべきものとする。

2) 弥生・古墳時代

この時代の当市の状況は、縄文時代以上に不明である。角田山麓、新潟砂丘、新津丘陵には多数の遺跡の存在が認められ、砂丘部、丘陵部を中心に定住生活を営んでいたものと思われる。市内ではこの時代の遺跡は確認されていないが、微高地などに居住していた可能性は否定しえない。

3) 奈良・平安時代

奈良・平安時代には、断片的ながら文献資料が残されている。庄瀬では延暦年間(782～806年)に京都からの移住者により開拓が行なわれたとあり〔飯田1989〕、この時期に低地の開発が本格化したものと思われる。

この時代の遺跡では、平成16年に茨曾根地区で発見された拾参番割遺跡から、溝状遺構および円形ピットと、10世紀前半の土師器の無台橋が出土している。周辺市町村では味方村曾根下遺跡、中之口村茶院遺跡、燕市三角田遺跡などが調査され、曾根下遺跡では竪穴住居2軒が検出されている。

4) 中世

文献資料、考古資料ともに一気に増加する。

中世の白根市周辺には国衙領である金津保、私領である青海荘、弥彦荘が存在したことが知られているが、永正年間(1504～1521年)成立の『蒲原郡段録帳』には青海荘の領分として「菟口条」、「小吉之条」の名が見え、市域の一部が青海荘に組み込まれていたことが確認できる。菟口は白根市大字上下諏訪木から大字白根ノ内七軒にかけて町名が残り、小吉之条は主に新飯田～戸頭間の中ノ口川沿いおよび白根市中南部一帯を指すとされ〔飯田前掲〕、現中之口村小吉が遺称地と考えられている。

また、16世紀末の文書には、白根、庄瀬、茨曾根、赤志(赤浜)などの集落名が登場し、中世末には市内の主な集落が成立していたことがうかがえる(註3)。

白根市の中世遺跡は16か所を数え、全体の84%を占める。昭和58年に調査された鎌倉後期の遺跡である馬場屋敷下層遺跡では、正応二年(1289年)銘の記された木札を含めた木簡52点のほか、畜串、人形などの呪術具や珠洲焼等が多数出土し、周囲に溝を巡らした方形の建物跡も確認されている〔川上ほか1983〕。また、平成14年に県教委が実施した浦郷遺跡(鎌倉末期)の発掘調査では、108点の木簡と人骨が出土し、中世の葬送に関する発見がなされている〔本間克成ほか2003〕。木簡の中には元應二年(1320年)銘の卒塔婆があり、遺跡の年代が判明している(註4)。

(註1) 笠巻川は17世紀までは信濃川の本流であり、現在の白根市臼井から西側へ曲流し、赤浜、鷲ノ木新田を経て新潟市楚川付近で中ノ口川と合流していたが、18世紀中頃から水流が減少し、1828年の三条地震で生じた河床の隆起により河川としての機能が半ば失われたため、耕地化されている。旧流路は現在でも明瞭に残り、地形図、航空写真によって容易に判別しえる。

(註2) 遺跡の立地は現集落と重なる部分が多く、遺跡の多層化が予想される。

(註3) 庄瀬が1577年、茨曾根が1587年、赤浜(赤志村の名で登場)が文禄年間(1592～1596年)、白根は1577年の文献にそれぞれ記録がある。

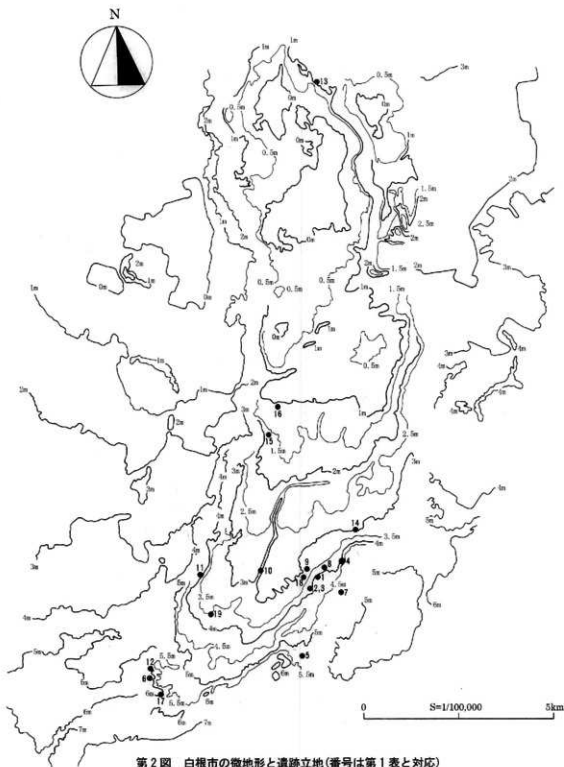
(註4) これらは平成16年度に県指定文化財となっている。



国土地理院 1/50,000 地形図「新津」(平成9年1月発行)、「新津」(平成4年10月発行)をもとに作成

No.	地区名/道跡名	調査種別	調査原因	調査期間
1	北田中地区	試掘調査	北部中継ポンプ場の建設	平成13年7月18日
2	戸畑・田中地区(前遺跡)	試掘調査	複合大型店舗およびパチンコ店建設	平成13年12月3日～12日、平成14年3月4日～7日、8月1日～8日
3	万年地区	試掘調査	広域農道の新設	平成15年5月12、13日
4	戸畑地区	試掘調査	集合住宅の建設	平成15年8月20日
5	上新田地区	試掘調査	工場および駐車場の建設	平成15年11月17日～平成16年3月9日、平成16年12月15日～21日
6	新飯田地区	試掘調査	特別養護老人ホームの建設	平成16年6月15日～18日、8月2日
7	上下諏訪木地区	試掘調査	複合大型店舗の建設	平成16年6月24日～7月1日
8	大塚地区	試掘調査	堤防の拡幅	平成16年8月4日～8月18日
9	白根地区	試掘調査	住宅団地造成	平成16年8月20日
10	天曾根地区(松参道側遺跡)	試掘調査	駐車場造成	平成16年11月22日～24日
11	平塚供地区	試掘調査	河道掘削	平成17年1月25日

第1図 調査地点と周辺地図

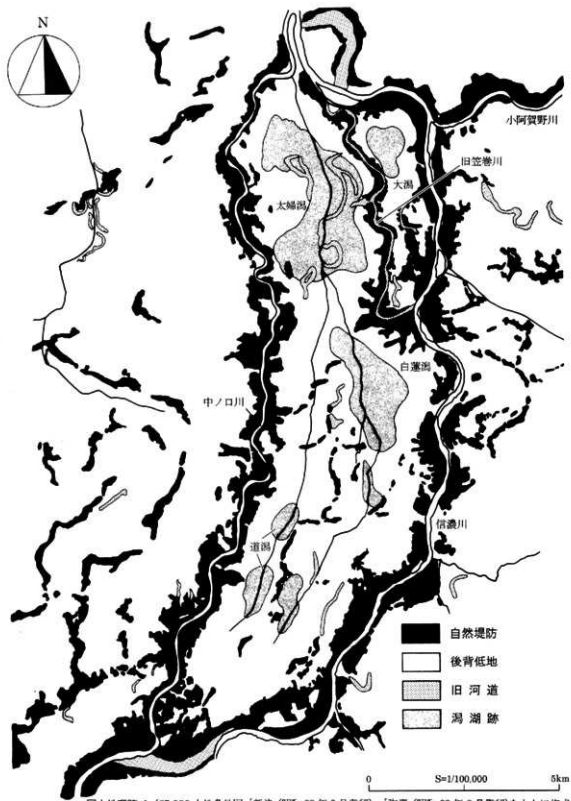


第2図 白根市の微地形と遺跡立地(番号は第1表と対応)

No.	遺跡名	種別	時代
1	若宮様遺跡	遺物包含地	室町
2	馬場屋敷遺跡	遺物包含地	鎌倉～室町
3	馬場屋敷の塚	塚	江戸
4	住瀬館跡	城館跡	室町
5	兎館跡	城館跡	室町
6	新飯田館跡	城館跡	室町
7	元屋敷遺跡	製鉄跡	中世
8	興野遺跡	遺物包含地	室町
9	戸石墓	遺物包含地	室町
10	嵐湯遺跡	遺物包含地	鎌倉

No.	遺跡名	種別	時代
11	永安寺の五輪等群	石塔	室町
12	等速寺の五輪塔	石塔	室町
13	林葉寺の五輪塔	石塔	室町
14	牛崎館跡	城館跡	中世?
15	浦瀬遺跡	墓地・祭祀	鎌倉～南北朝
16	前遺跡	遺物包含地	室町
17	古町遺跡	遺物散布地	室町
18	下田保遺跡	遺物包含地	中世
19	拾参番割遺跡	遺物包含地	平安

第1表 白根市内埋蔵文化財包蔵地一覧



国土地理院 1/25,000 土地条件図「新津」(昭和 63 年 2 月発行)、「弥彦」(昭和 63 年 2 月発行)をもとに作成
 第 3 図 白根市内地形分類図

Ⅱ章 調査概要

1 北田中地区

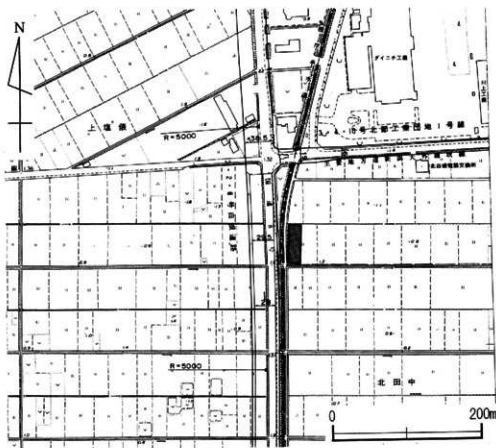
調査原因：北部中継ポンプ場建設（公共事業／白根市）

調査期間：平成13年7月18日

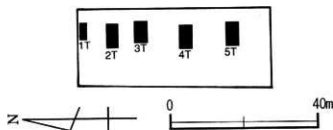
調査面積：103㎡（開発総面積の10%）

調査概要：調査地点は白根市北部の低湿地帯にあり、かつての潟湖（太婦潟）跡である（第4図）。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地はない。調査にあたっては5か所にトレンチを設けた（第5図）。掘削は、重機を使用して深さ2mを目途に掘り下げ、遺構・遺物の有無を調査し、土壌の堆積状況を観察・記録後、埋め戻した。

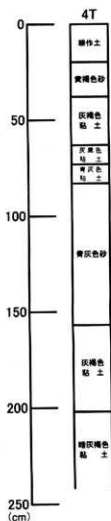
土質は比較的締まりがあるものの、シルトと細砂を主体とする水成堆積である（第6図）。遺構・遺物等の出土はなかった。



第4図 北田中地区調査地位位置図(S=1/5,000)



第5図 北田中地区トレンチ配置図(S=1/1,000)



第6図
北田中地区土層柱状図
(S=1/20)

2 戸頭・田中地区(前遺跡)

調査原因：複合大型店舗およびパチンコ店建設(民間事業)

調査期間：平成13年12月3日～12日、平成14年3月4日～7日、8月1日～8日

調査面積：1,893㎡(開発総面積の34,000㎡の5.56%)

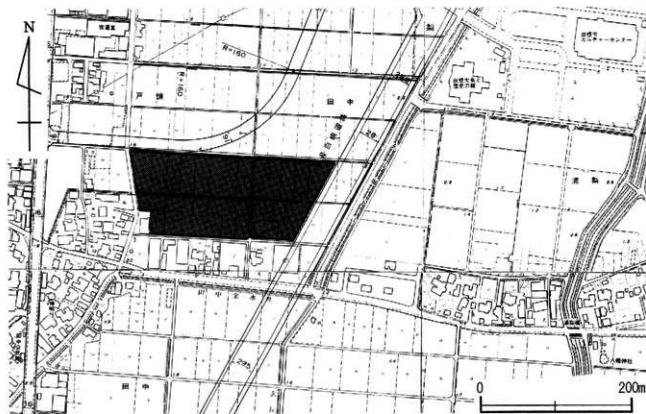
調査概要：調査地は中ノ口川の自然堤防末端に位置し、標高は約1mを測る(第7図)。付近には周知の埋蔵文化財包蔵地である蒲鑑遺跡(中世)が存在する。調査にあたっては区域全体をカバーするように、トレンチを68か所設定し(第8図)、重機を使用して深度2mを目途に掘り下げて遺構・遺物の有無を調査し、土壌の堆積状況を観察・記録後に埋め戻した。なお、北側部分(67T、68T)は工事立会中に発見され、急遽、記録をとったものである。

基本土層(第9図)は調査区東部と西部で若干の違いが見られ、西部は水成堆積の軟弱地盤、東部がやや安定した地盤となっている。

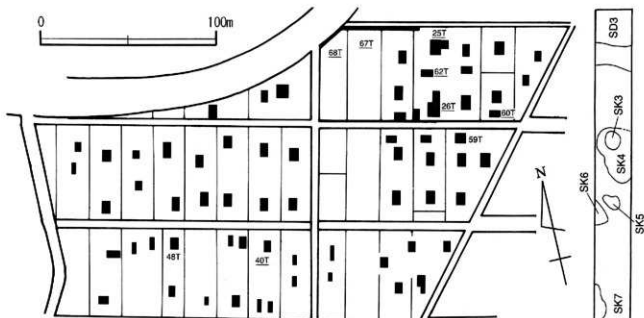
遺構・遺物は北東部を中心に確認された。遺物包含層が黒色～白色粘土層、遺構確認面は暗灰色粘土層(第9図)で、溝状遺構4条、土坑12基、ピット3基が検出されている(第10図)。遺物は25・26・40・60・62・67・68Tで珠洲焼6点、甕形陶器2点、唐津1点、木製品5点が出土した。珠洲焼は播鉢2点、口縁部破片1点、胴部破片3点で、形態からⅣ～Ⅴ期(14世紀～15世紀半ば/[吉岡1994]による)に該当するものと思われる(第11図1～5)。第11図6は下駄の差し歯で、接地面にむかって広がる「銀杏歯」である。それぞれ遺構との共存関係は確認されなかったものの、出土状況および層位から見るに、遺構と遺物は同時代と考えられる。

遺構・遺物が検出された地点は、盛土して駐車場となり、遺跡に影響を与えることがないため、本発掘調査の必要はないと判断した。工事中に発見された67T、68Tについては、文化財保護法にもとづく手続きを行い、工事継続とした。

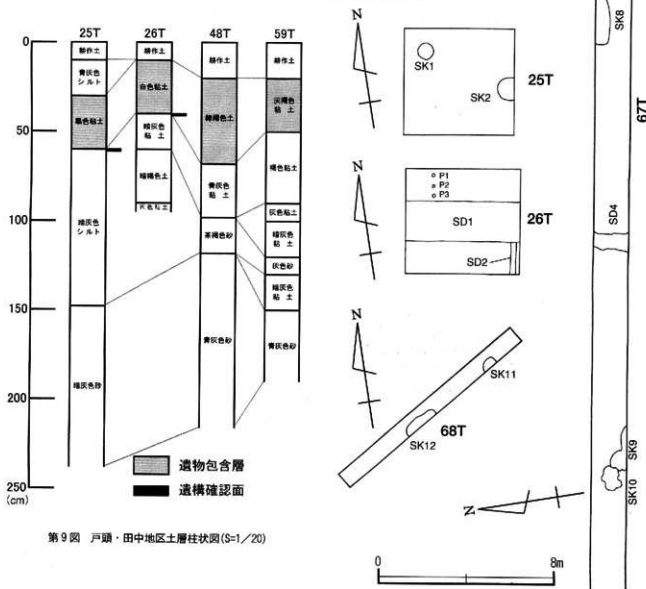
なお、当遺跡は平成14年8月16日付で周知の埋蔵文化財包蔵地として登録され、小字名をとって前遺跡と命名された。



第7図 戸頭・田中地区調査地位置図(S=1/5,000)

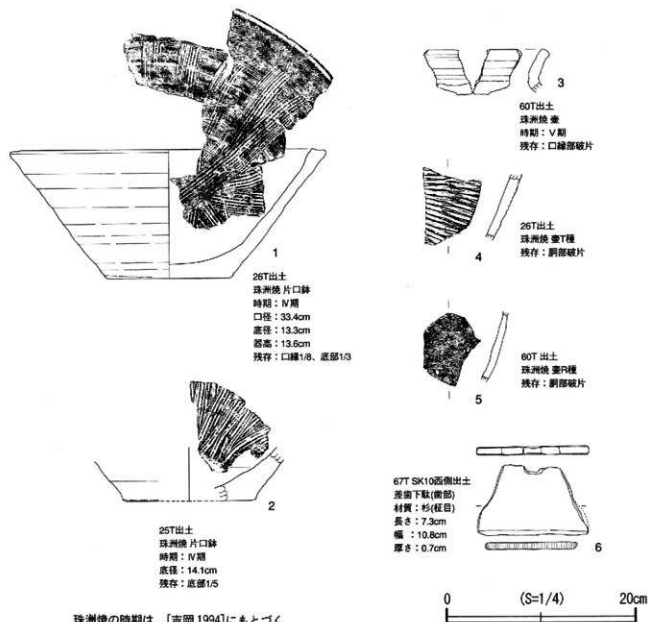


下様のトレンチは遺構・遺物が確認されたもの。
 第8図 戸頭・田中地区トレンチ配置図(S=1/2,000)



第9図 戸頭・田中地区土層柱状図(S=1/20)

0 8m
 第10図 戸頭・田中地区検出遺構平面図(S=1/160)



珠洲焼の時期は、[吉岡 1994]にもとづく

第11図 戸頭・田中地区出土遺物

3 万年地区試掘調査

調査原因：広域農道整備事業による農道新設(公共事業/新潟県)

調査期間：平成15年5月12日、13日

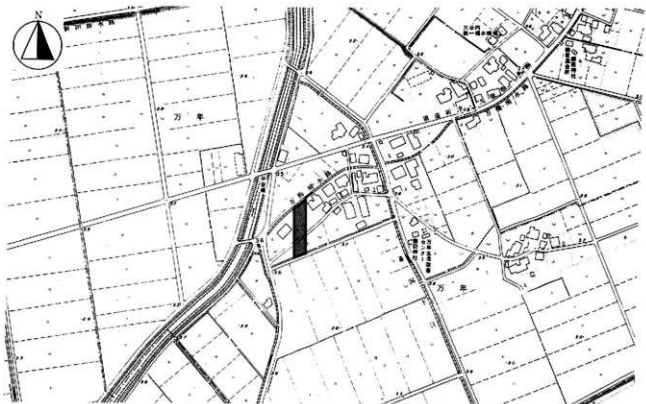
調査面積：52㎡(開発面積の3.9%)

調査概要：調査地点は自然堤防上に立地し、標高は約3mである(第12図)。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。試掘対象区域は、工期の関係から自然堤防にかかる農道新設部分約1,330㎡のみを対象とした。調査にあたっては4か所のトレンチ(以下、Tと略す)を設定し、3×3m、深度2mを目途に掘削した(第13図)。

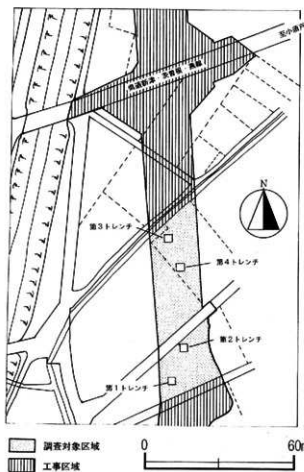
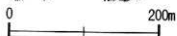
土層の堆積状況は後背低地の1・2Tと自然堤防上の3・4Tで大きな違いが見られ、前者は盛土直下から青灰色の還元層があらわれる水成堆積、後者は土壌化した暗褐色腐食土層を主体とする(第14図)。

調査の結果、第2Tで枕列が検出されたが、先端部に機械による切断痕が観察されたため、近・現代の遺構と判断した。遺物は2Tで杉製の木製品2点、3Tで陶磁器片1点、4Tで陶磁器片3点が出土したが、いずれも近世以降のものと思われる。

調査の結果、近世以前の遺構・遺物は確認されなかったが、3・4Tの堆積状況を見ると、自然堤防を中心に明確に土壌化した地層が存在するため、周辺に未発見の遺跡が存在する可能性は高いと言える。



第12図 万年地区調査地位位置図(S=1/5,000)



第13図 万年地区トレンチ配置図(S=1/1,500)



第14図 万年地区土層柱状図(S=1/20)

4 戸頭地区試掘調査

調査原因：集合住宅の建設(民間事業)

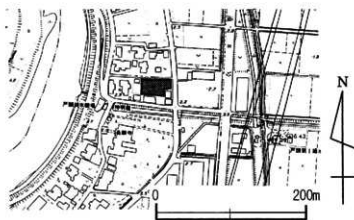
調査期間：平成15年8月20日

調査面積：52㎡(開発面積882㎡の約6%)

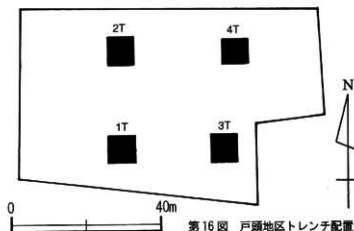
調査概要：中ノ口川の自然堤防上に立地し、標高は約1.5mである。東側50mに周知の埋蔵文化財包蔵地である浦廻遺跡が存在する(第15図)。

調査にあたって、3.6×3.6mのトレンチを4か所設定した(第16図)。掘削は重機を使用して深さ約2mを目途に掘り下げ、遺構・遺物の有無を調査し、土壌の堆積状況を観察・記録後、埋め戻した。

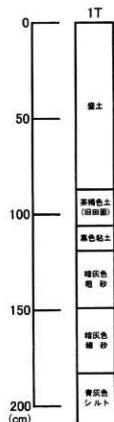
土層は地表面から約70～120cmが盛土で、その下に水田耕作土が堆積し、以下は細砂・粘土・シルトの互層となっている(第17図)。遺構・遺物は発見されなかった。



第15図 戸頭地区調査地位置図(S=1/5,000)



第16図 戸頭地区トレンチ配置図(S=1/1,000)



第17図 戸頭地区土層柱状図(S=1/20)

5 上新田地区試掘調査

調査原因：工場および駐車場の造成(民間事業)

調査期間：平成15年11月17日～11月20日、平成16年3月9日、平成16年12月15日～21日

調査面積：493㎡(開発総面積28,990㎡の1.7%)

調査概要：調査地は、信濃川の自然堤防上に位置し、標高は約6mである(第18図)。調査地の北西約500mに周知の埋蔵文化財包蔵地である占町遺跡(中世)が存在する。

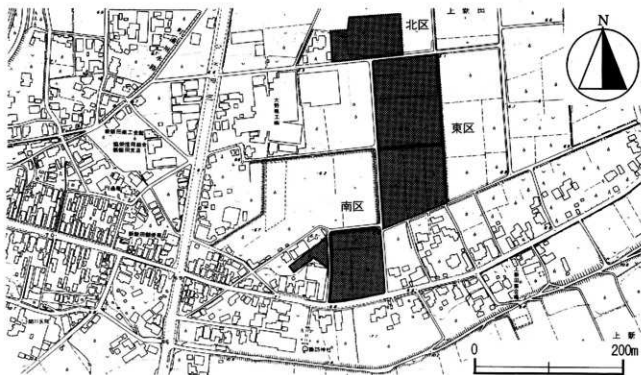
調査区は駐車場予定地である北区・南区、切削工場建設予定地である東区の3地区からなる。調査にあたり、38か所にトレンチ(4m×4m。以下Tと略す)を設定した(第19図)。掘削は重機を使用して深さ約2mまで掘り下げ、遺構・遺物の有無を調査し、土壌の堆積状況を観察・記録後、埋め戻した。

層序は南区・西区・東区で連続性が認められるが、北区および東区北側では圃場整備の際に地表面が攪

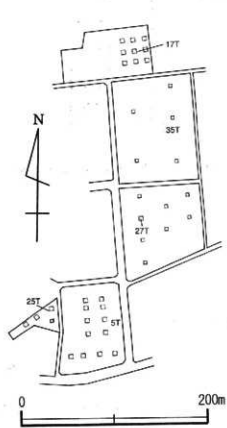
乱されており、南区・西区との明確な対応関係が見出せない(第20図)。

5T第2層(暗灰色粘土)は層中に葦などの水生植物の遺体が多く混入しており、潟や沼などの低湿地環境にあったことが想定できる。一方、5T第6層(暗灰色粘土)は他の層と比べて土壌化が進み、陸化した状態にあったことが推定された。この層は南区・東区を中心に分布している。

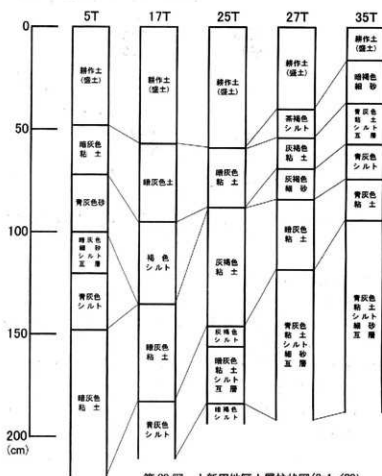
調査の結果、遺構・遺物は確認されず、調査区域内に遺跡は存在しないものと考えられる。



第18図 上新田地区調査地位置図(S=1/5,000)



第19図 上新田地区トレンチ配置図 (S=1/4,000)



第20図 上新田地区土層柱状図(S=1/20)

6 新飯田地区試掘調査

調査原因：特別養護老人ホームの建設(民間事業)

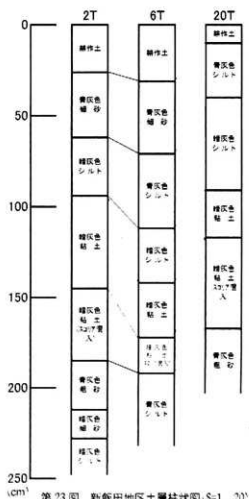
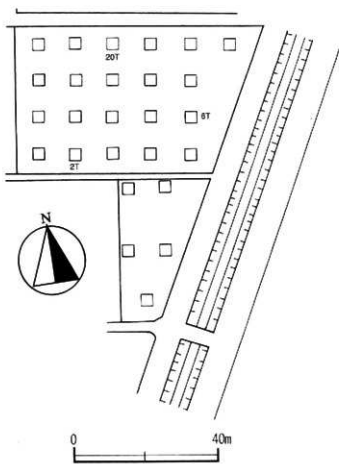
調査期間：平成16年6月15日～18日、8月2日

調査面積：338㎡(調査対象面積5,653㎡の約6%)

調査概要：調査地は白根市南部、標高約5mの後背低地にあり、東から西に向かって緩やかに傾斜している(第21図)。周知の埋蔵文化財包蔵地として、付近に古町遺跡、新飯田館跡が存在する。

調査にあたって、26か所のトレンチ(3.6×3.6m)を設定した(第22図)。掘削は、重機を使用して2mを目途に掘り下げ、遺構・遺物の有無を調査し、土壌の堆積状況を観察・記録し、埋め戻した。

表層は耕作等による擾乱をうけているものの、堆積の変化が少なく、層序は把握しやすい。各層とも未分解の植物遺体を多く含んでおり、低湿環境下にあったことがわかる(第23図)。遺構・遺物は確認されなかった。



第22図 新飯田地区トレンチ配置図(S=1/1,000)

第23図 新飯田地区土層柱状図(S=1/20)

7 上下諏訪木地区試掘調査

調査原因：複合大型店舗の建設(民間事業)

調査期間：平成16年6月24日～7月1日

調査面積：680㎡(開発総面積約40,673㎡の1.67%)

調査概要：白根市中央部中ノ口川寄りの後背低地中に位置し、付近の標高は0.7mほどである(第24図)。南側130mには周知の埋蔵文化財包蔵地である浦廻遺跡(鎌倉末期～南北朝)、200m南方には前遺跡(鎌倉～室町)が存在する。

調査は、3.6×3.6mのトレンチ(以下、Tと略す)を任意で45か所設定し(第24図)、重機を使用して2mを目途に掘り下げ、遺構・遺物の有無を調査し、層の堆積状況を観察・記録し、埋め戻した。

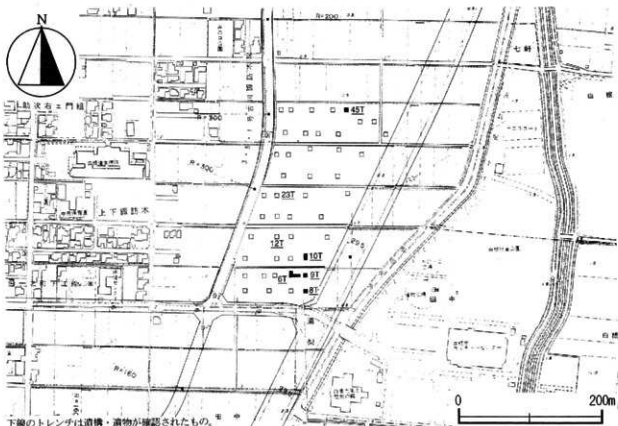
土層は低湿地性の堆積で、水田耕作上の直下に薄いガツボが堆積し、以下は粘土、シルト、砂の互層からなる(第25図)。トレンチによっては地下1～1.5mに暗褐色の緻密な粘質シルト層(足跡遺構検出層)が存在し、調査区の東側を中心に分布している。現地形の観察から、微高地状の高まりをなすものと推測される。

調査区南東部と北端で足跡が73歩検出されている(第26図)。足跡群は暗灰色シルト層(6T第6層)の上面で確認されており、洪水による薄い砂層に覆われている。歩幅と歩行の方向が明確に捉えられるものは4グループ認められる(第26図)。歩幅はⅠ群で24cm、Ⅱ群で平均22.8cm、Ⅲ群で平均34.6cm、Ⅳ群14cm、全体の平均は25.6cmである。足のサイズは18cm～25cmが最も多く、最小が11cm、最大が32cm、平均は20.2cmである。大きさはばらつきが大きく、大人、子供の判別は難しい。

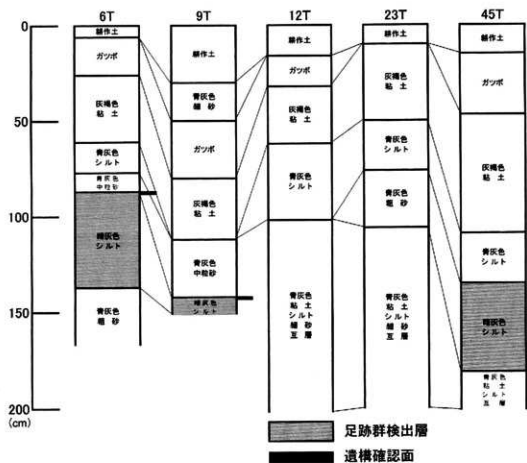
当初、この足跡群は水田遺構に伴うものと考え、トレンチを拡張し、精査したが、畦畔等は確認できなかった。

遺物が全く出土していないため、足跡の時期についても不明であるが、約200m南に位置する前遺跡からは13世紀後半～14世紀にかけての遺構・遺物が出土していることから、この近辺に未発見の遺跡が存在する可能性が高い。

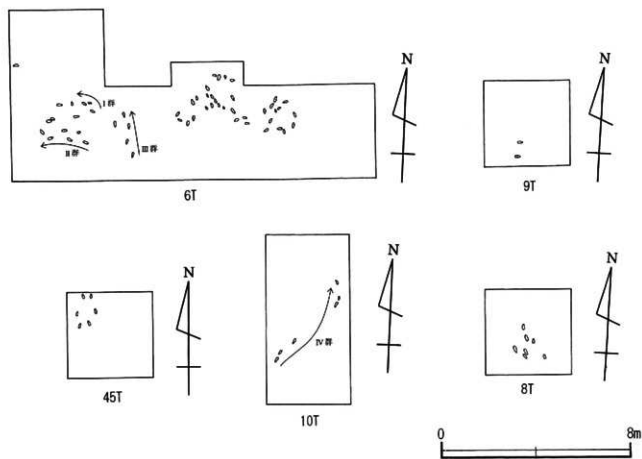
県教育委員会と取扱いについて協議した結果、時期が明確でないこと、畦畔などの遺構が検出されていないことから、遺跡とするには根拠に弱いため、埋蔵文化財としては取り扱わないこととした。事業者には慎重な工事をお願いした上で、工事着工とした。



第24図 上下諏訪木地区調査地位位置図(S=1/5,000)



第25図 上下諏訪木地区土層柱状図(S=1/20)



第26図 上下諏訪木地区検出遺構平面図(S=1/160)

8 大郷地区試掘調査

調査原因：信濃川下流堤防強化対策事業による堤防拡幅(公共事業/国土交通省)

調査期間：平成16年8月4日～8月18日

調査面積：590㎡(開発総面積27,000㎡の2.2%)

調査概要：調査対象地域は白根市北部、信濃川左岸の主要地方道路新潟大外環状線大郷橋下流から国道460号白井橋上流までの約1,350m、幅約20mの堤外地である(第27図)。現集落は堤防の内側に沿って南北に連なっているが、これは明治年間の堤防新設にともない移転したもので、それ以前の集落は信濃川沿いに立地しており、現在も堤外地に旧堤防の跡が見られる。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。

標高は2m～4mと、場所によってばらつきがあるものの、南に向かって徐々に標高を増している。湧水が少なく地盤は良好である。

調査にあたって、4×4mのトレンチ(以下、Tと略す)を45か所設定した(第28図)。掘削は重機を用い、2.5mを目標に掘り下げ、遺物・遺構の有無を調査し、層の堆積状況を観察・記録し、埋め戻した。

調査区はほぼ全域にわたって1mほど盛土されている。堆積は細砂とシルトの互層を主体とし、腐食は少なく、土壌化は弱い。傾向としては、灰白色のシルト・細砂からなり、層のしまりが良好な場所(3T、11T、20T、26T)と青灰色砂・シルト・粘土の互層からなる還元の高い場所(34T、36T、44T、45T)に分けられる(第29図)。

遺構は34T、45Tで杭列、36Tで溝状遺構が検出されているが、いずれも近世以降の遺物を相伴している。遺物は1T、4T、23T、26T、32T、36T、38～41T、44T、45Tで出土している。時期は、江戸～昭和までと幅広い。多くは陶器の破片である。盛土直下から一括で出土しているため、盛土直前に廃棄されたものと思われる。以下に特徴的な遺物を図示する。

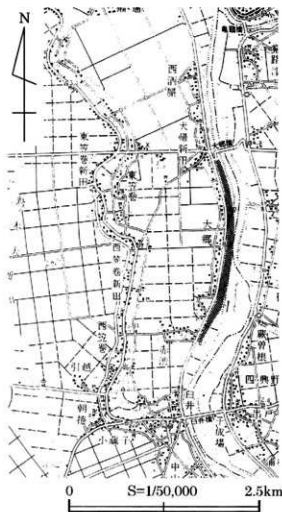
第30図1は瀬戸・美濃の杯で、日章旗と旧日本陸軍のシンボルマークである星がプリントされており、「念(記念か?)」の文字が見える。成形は石膏鋳型による。任務等を終え、復員した部隊に記念品として配られたものと思われる。戦中～終戦直後のものか。

第30図2、3、4は目薬ビンである。第30図2は青色のガラスビンで、一方の面に「ROHTO」のロゴがある。形態的には両口式点眼ビンとされるもので、昭和6年(1931年)に発明され、昭和30年代まで流通していた。

第30図3は紺色のガラスビンで、ロゴはそれぞれ、「東京」[㊦]、「応用目薬」とある。一方の側面に点眼用のスポイトを収納するための凹みがある。スポイト式の点眼は明治～昭和初期にかけて行なわれていたため、本品もその時期に生産されたものと思われる。

第30図4は群青色の長頸のガラスビンで、胴部各面に「一方水」、「IPOUSUI」、「資生堂」、「SHESEIDO」のロゴがある。「一方水」は明治から大正時代にかけて製造されている。

第30図45は行平鍋で、18世紀末～19世紀に生産された陶器である。底部のみの残存である。内面には鉄軸が施され、外面は無軸である。第30図46に新津市川内遺跡出土品を参考掲載した。



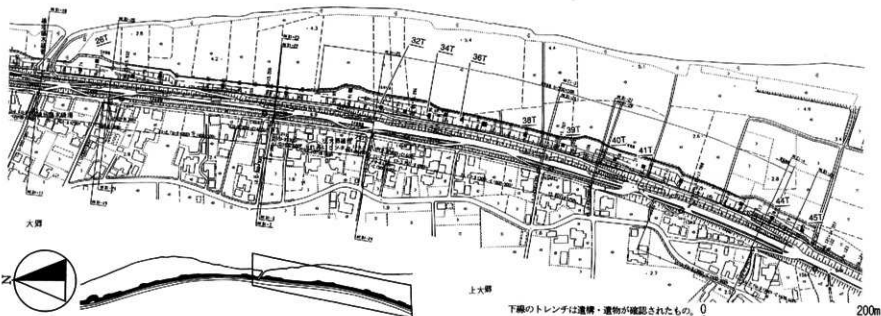
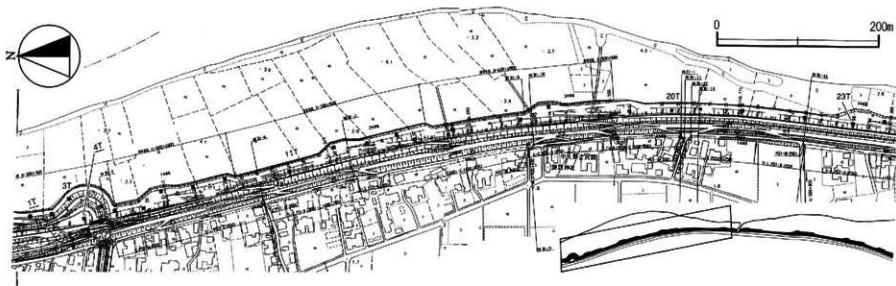
第27図 大郷地区調査地位置図(S=1/50,000)

9 白根地区試掘調査

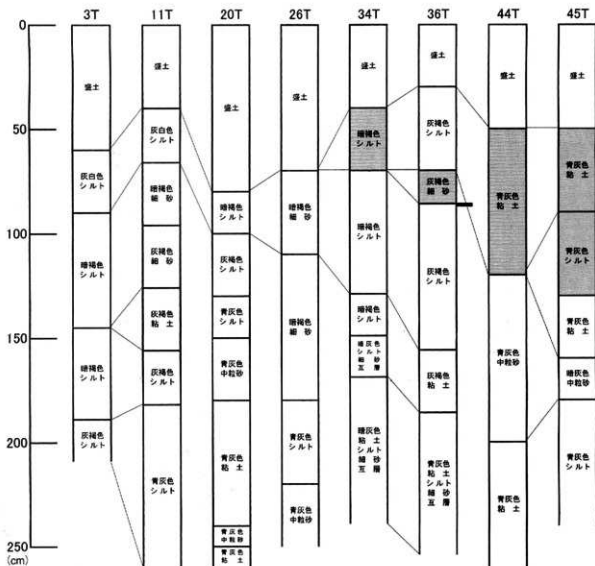
調査原因：住宅地造成(住居事業)

調査期間：平成16年8月20日

調査面積：64㎡(開発総面積2,761㎡の約2.3%)



第28図 大野地区トレンチ配置図(S=1/4,000)



第29図 大郷地区土層柱状図(S-1/20)

■ 遺物包含層

■ 遺構確認面



36T出土

磁器

時期：戦前～終戦直後
口径：8.4cm
底径：3.1cm
器高：3.5cm



36T出土

目薬ビン(スポイト式)

時期：明治～大正

色調：鉛色

長さ：5.3cm

幅：2.1cm

重量：11g



36T出土

目薬ビン(スポイト式)

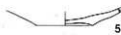
時期：明治～大正

色調：群青

長さ：6.5cm

幅：2.0cm

重量：20g



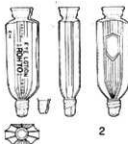
45T出土

行平鍋

時期：18C末～19C

底径：4.5cm

残存：底面完存



4T出土

目薬ビン(両口式)

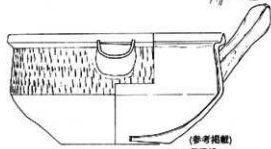
時期：昭36～30年代

色調：青

長さ：8.8cm

幅：2.7cm

重量：19g



(参考掲載)

行平鍋

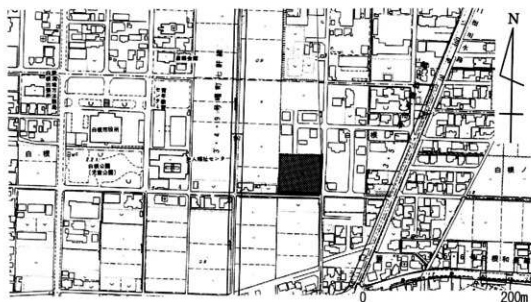
新津市江内遺跡出土

0 (S=1/3) 15cm

第30図 大郷地区出土遺物

調査概要：白根市中央部、中ノ口川寄りの後背低地に位置し、標高は約0.8mである(第31図)。付近には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。調査にあたっては、4×4mのトレンチを4か所設定した(第32図)。掘削は重機を用いて、2mを目途に掘り下げ遺物・遺構の有無を調査し、層の堆積状況を観察・記録し、埋め戻した。

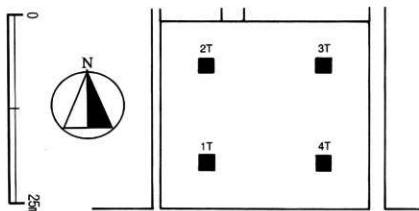
土層は表面の水田耕作土を除き、粘土・シルトと砂からなる水成堆積であるが、細砂とシルトが主体で、しまりは良い(第33図)。遺構・遺物の出土は見られず、遺跡は存在しないと思われる。



第31図 白根地区調査地位置図(S=1/5,000)



第33図 白根地区土層柱状図(S=1/20)



第32図 白根地区トレンチ配置図(S=1/500)

10 茨曾根地区(拾参番削遺跡)試掘調査

調査原因：駐車場造成(民間事業)

調査期間：平成16年11月22日～24日

調査面積：192㎡(開発総面積11,333㎡の約1.7%)

調査概要：白根市南部の後背低地に位置し、標高は約3mである(第34図)。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。調査にあたって、4×4mのトレンチ(以下T)を11か所設定した(第35図)。掘削は重機を使用して2mを目途に掘り下げ、遺物・遺構の有無を調査し、層の堆積状況を観察・記録後、埋め戻した。

堆積は粘土・シルトの互層であるが、用水を挟んで東側が低湿地性の堆積、西側は安定した地盤となる(第38図)。8T第6層(暗灰色腐植土)が平安時代の遺物包含層、8T第7層(青灰色シルト)上部が遺構確認面である。

遺構、遺物はともに8Tで確認されている。深さは地表から約150cmである。

遺構は、溝状遺構1条、円形ピット2基が検出された(第36図)。溝状遺構(SD1)は幅約22cm、深さ約20cmで、

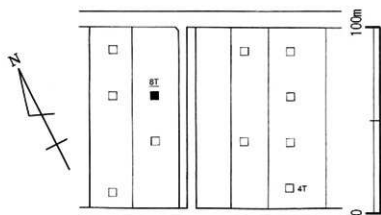
北東方向に向かっている。覆土は黒色炭化物を多く含む粘質土である。円形ピットはP1が直径22cm、深さ約30cm、P2は直径約20cm、深さ約25cmを測り、覆土はSD1と同様に黒色の炭化物を多く混入する。

遺物は、土師器の無台碗が1点出土した(第36・37図)。底部に糸切痕が残り、内面は黒色処理されている。おおむね10世紀前半の所産である。

遺跡範囲は盛土して駐車場となるため、工事による影響はないと判断し、文化財保護法上の手続きを行い、慎重工事とした。なお、本遺跡は平成16年12月16日付で周知し、小字名より拾参番遺跡と命名した。

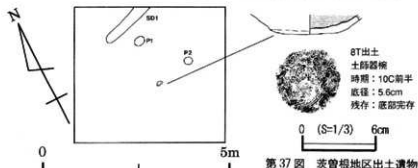


第34図 茨曾根地区調査地位置図(S=1/5,000)



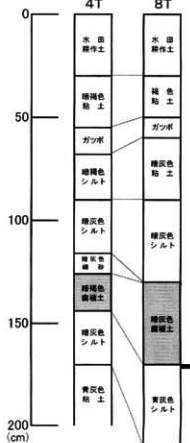
第35図 茨曾根地区トレンチ配置図(S=1/2,000)

下線のトレンチは遺構・遺物が確認されたもの。



第36図 茨曾根地区遺構見取図(S=1/100)

第37図 茨曾根地区出土遺物



■ 遺物包含層

■ 遺構確認面

第38図 茨曾根地区土層柱状図(S=1/20)

11 下塩俵地区試掘調査

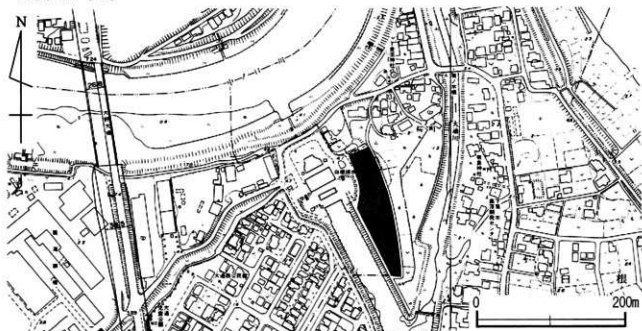
調査原因：排水機場移転にともなう河道掘削(公共事業/農林水産省北陸地方整備局)

調査期間：平成17年1月25日

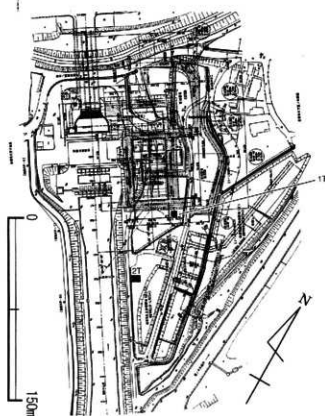
調査面積：45㎡(開発面積約9,000㎡の約0.5%)

調査概要：白根市北端の自然堤防上に位置し、標高は0.54mである(第39図)。付近に周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。トレンチ(以下Tと略す)は4×4m、4×7.2mの2か所を設定した(第40図)。掘削は重機を使用して2mを目途に掘り下げ、遺物・遺構の有無を調査し、層の堆積状況を観察・記録後、埋め戻した。

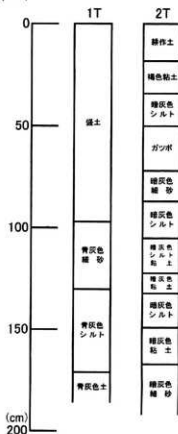
堆積は1、2Tとも粘質シルトを主体とし、2Tでは若干粘上質となる(第41図)。しまりは比較的良好で、湧水は少ない。2T第8層から礫の混入が目立ちはじめ、2T第11層は多量の礫を含む。遺構・遺物の出土は認められなかった。



第 39 図 下塩俵地区調査地位置図(S=1/5,000)



第 40 図 下塩俵地区トレンチ配置図(S=1/3,000)



第 41 図 下塩俵地区土層柱状図(S=1/20)

Ⅲ章 おわりに

平成13年度～16年度にかけて市内で実施した試掘調査11件について今回、報告を行った。白根市はかねてより遺跡の少ない地域と言われてきたが、一連の調査により、沖積面に埋没した遺跡の存在が明らかになっている。

試掘調査により新たに発見された遺跡は2遺跡で、前遺跡では鎌倉時代の遺構・遺物が、拾参番割遺跡では平安末期の遺構・遺物が検出され、特に拾参番割遺跡の発見は、白根市の歴史を平安時代まで溯らせることとなった。また、上下源訪木地区で発見された足跡群は、付近に遺跡が存在する可能性を示唆している。

遺構・遺物が確認されなかった調査については位置図と土層柱状図のみの掲載となったが、地下の状況についての情報を蓄積させることで、試掘の要否判断をより容易にし、効率的な埋蔵文化財保護につながるものとする。

ほぼ全域が沖積層からなる白根市では、本文でも述べたとおり遺跡が地中深く埋没していることが多く、地表面も圃場整備による地形の変更が激しく、表面観察による遺跡の把握が困難である。このため、遺跡の把握は試掘調査にその多くを負っているのが実状である。

試掘調査は基本的に開発事業に伴って実施するため、事業の早期把握が埋蔵文化財の保護に与える影響は非常に大きい。開発事業のチェックシステムの確立と予算措置が必要不可欠であるが、幸いにして関係各位の理解と協力を得られ、急な開発にも即応できる体制を整えることができた。

白根市がこの3か年に実施した試掘調査は、平成13年が2件、平成15年が3件、平成16年が7件と増加の一途を辿っている。今後、民間事業への対応が主体となることが想定されるため、埋蔵文化財保護行政への理解と協力について、一層の普及・啓発が必要となろう。

最後に、発掘調査および本報告書作成にあたりご支援、ご協力をいただいた諸氏、関係機関、事業者各位、土地所有者に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第2表 白根市内埋蔵文化財発掘調査・工事立会等件数(H13～16)

年 度	照会件数	工事立会	試掘調査	確認調査	本調査
平成13		0	2(1)	0	0
平成14	6	2	0	0	0
平成15	16	4	3(1)	0	0
平成16	25	1	7(2)	0	0
合 計	47	7	12(4)	0	0

() 内は公共事業

数値は平成17年3月11日現在。調査件数は白根市教育委員会が実施したもののみ。

引用・参考文献

- 相沢 央 2004 「第二章 第二節二」『吉田町史 通史編 上巻』吉田町
- 青木 滋 1996 「越後平野の地盤環境」『第四期研究35-3』日本第四紀学会
- 秋田裕毅 2002 『ものと人間の文化史104 下駄—神のはきもの—』法政大学出版局
- 朝岡政康 2004 「第二章 第一節」『吉田町史 通史編 上巻』吉田町
- 味方村教育委員会 2002 「曾根下遺跡緊急発掘状況報告」『味方村史』味方村史編纂委員会編 味方村
- 荒木 宏 1986 「一ふるさと小林—訪ね歩いて」
- 飯田素州 1989 「第二編 中世」『白根市史 巻七 通史』白根市
- 石原正敏・菅沼亘 2004 「十日町市埋蔵文化財調査報告書 第25集 平成15年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書」十日町市教育委員会文化財課
- 石山精哉ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第76集 江内遺跡—磐越自動車道関係報告書—』新潟県教育委員会
- 市田京子 2000 「江戸時代の下駄」『江戸文化の考古学』江戸遺跡研究会編 吉川弘文館
- 伊藤秀和 1998 「加茂市文化財調査報告(8) 平成9年度加茂市内遺跡確認調査報告書 丸瀨・新道・馬越・上條館・中沢・石川遺跡」加茂市教育委員会
- 伊藤秀和ほか 2000 「加茂市文化財調査報告(10) 丸瀨・新道遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—」加茂市教育委員会
- 岩田孝三 1933 「越後平野に於ける河川境界についての政治地理学的研究」『大塚地理学論文集』第二輯上 古今書院
- 潮田鉄雄 1973 『ものと人間の文化史8 はきもの』法政大学出版局
- 卜部厚志・高濱信行 2002 「新潟平野・西蒲原地域における縄文時代中期の古地理」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 遠藤恭雄 2004 「下前川原遺跡」豊栄市教育委員会
- 大熊 孝 1979 「信濃川治水の歴史」『アーバンクボタ』No.17 株式会社クボタ
- 1996 「越後平野の治水と河川開発史」『第四期研究35-3』日本第四紀学会
- 太田喜重・菅沼亘 2003 「十日町市埋蔵文化財調査報告書 第24集 平成14年度 十日町市内遺跡試掘・確認調査報告書」十日町市教育委員会文化財課
- 岡本都栄ほか 1983 「新潟県白根市馬場屋敷遺跡等遺跡範囲確認調査報告書」白根市教育委員会
- 小熊 博 1996 「越後平野における旧石器・縄文時代の遺跡立地とその変遷」『第四期研究35-3』日本第四紀学会
- 小野正敏編 2001 『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 加賀真樹 1997 「第6章第1節 珠洲窟」『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』桂書房
- 龍瀬良明 1990 「自然堤防の諸類型」古今書院
- 春日真実 1997 「越後における10・11世紀の土器様相」『北陸古代土器研究』第7号 北陸古代土器研究会
- 1999 「土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 加藤 学 2003 「まとめ」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第128集 仲田遺跡』新潟県教育委員会
- 川上貞雄 1996 『中組遺跡』吉田町教育委員会
- 川上貞雄ほか 1984 「白根市文化財調査報告(2) 馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書」白根市教育委員会
- 日下哉編 2002 『図解 日本地形用語辞典』東洋書店
- 小林健二ほか 1997 『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第132集 大師東丹保遺跡Ⅱ・Ⅲ区』山梨県教育委員会
- 斎藤幸太郎 1966 「澁川周辺村落の生成と変遷」『澁川干拓地域民俗資料緊急調査報告書 澁川—1965—』新潟県教育委員会・巻町教育委員会
- 斎藤秀樹 2000 「八田村文化財調査報告書 第2集 野牛島・大塚遺跡—八田村道163号線ボトルネック解消市町村道県代行事業の事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」八田村教育委員会
- 2001 「八田村文化財調査報告書 第3集 榎原・天神遺跡—高度農業情報センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」八田村教育委員会
- 坂井秀弥 1999 「第四章 古代 第1節 総論」『新潟県の考古学』高志書院
- 坂井秀弥ほか 1984 「上新バイパス関係発掘調査報告書 今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡」新潟県教育委員会

- 1986 「北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅱ—ノ口遺跡西地区」新潟県教育委員会
- 1989 「新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀遺跡」新潟県教育委員会・建設省北陸地方建設局新潟県国道工事事務所
- 笹沢正史 2003 「古代 時代概説」『上越市史 資料編2 考古』上越市
- 笹沢正史・水澤幸一 2001 「伝至徳寺遺跡の遺物様相—中世前半を中心として—」『上越市史研究』第6号 上越市
- 清水潤三 1955 「新潟県中蒲原郡川根独木舟」『日本考古学年報3』日本考古学協会
- 下中直人編 1984 『増補やきもの事典』平凡社
- 白崎智隆 2003 「福岡遺跡—(仮称)八日市場市介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財調査—」財団法人東総文化財センター
- 白根郷普通水利組合編 1945 「白根郷治水史」白根郷普通水利組合
- 白根市史編纂室編 1985 「白根市史 巻一 古代・中世・近世資料」白根市
- 鈴木俊成ほか 1994 「北陸自動車道 上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ—ノ口遺跡東地区」新潟県教育委員会
- 鈴木隆介 2004 「建設技術者のための地形図読込入門 第2巻 低地」古今書院
- 高橋 学 1996 「古代の地形環境と土地開発」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第7集』帝京大学山梨文化財研究所
- 2003 「平野の環境考古学」古今書院
- 高濱信行ほか 2002 「味方排水機場遺跡調査報告書」『味方村史』味方村史編纂委員会編 味方村
- 竹石 暹 1989 「第一編 古代」『白根市史 巻七 通史』白根市
- 田中大輔 1997 『昭和町かすみ堤』昭和町教育委員会
- 田中久夫 1978 「蒲原低湿地帯の微地形と表層地質」『新潟県文化財調査年報 第17 亀田郷』新潟県教育委員会
- 中世研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 立木宏明ほか 2002 「内野遺跡発掘調査報告書」新津市教育委員会
- 鶴巻康志 2004 「至徳寺遺跡」『上越市史叢書8考古—中・近世資料—』上越市
- 新潟琢磨グループ 1979 「平野の地下」『アーバンクボタ』No.17 株式会社クボタ
- 新津 健 1998 「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第148集 沢沢河岸跡—明神白子地区埋蔵文化財発掘調査—」山梨県教育委員会
- 百武松見 1996 「新潟市周辺における地盤沈下の経緯」『第四期研究』35-3 日本第四紀学会
- 北都編集部ほか 1989 「第三編 近世」『白根市史 巻七 通史』白根市
- 保坂和博 1997 「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第133集 大師東丹保遺跡Ⅳ区」山梨県教育委員会
- 本間克成ほか 2003 「一般国道8号 白根バイパス関係発掘調査報告書 浦瀬遺跡」新潟県教育委員会
- 本間敏則 2004 「第二章 第二節一」『吉田町史 通史編 上巻』吉田町
- 本間信昭ほか 1976 「新潟県埋蔵文化財調査報告書 第5集 茶院遺跡」新潟県教育委員会
- 松下正司編 1984 『日本の美術 第215号 草戸千軒町遺跡』至文堂
- 神子島義平 1981 「地形・地質」『三条市史 資料編 第1巻 考古・文化』三条市
- 水澤幸一 1993 「中条町埋蔵文化財調査報告第2集 奥山荘城館遺跡調査報告第1集 江上館Ⅰ」中条町教育委員会
- 1994 「中条町埋蔵文化財調査報告第6集 奥山荘城館遺跡調査報告第2集 江上館Ⅱ」中条町教育委員会
- 1995 「中条町埋蔵文化財調査報告第8集 奥山荘城館遺跡調査報告第3集 江上館Ⅲ」中条町教育委員会
- 1996 「中条町埋蔵文化財調査報告第10集 奥山荘城館遺跡調査報告第4集 江上館Ⅳ」中条町教育委員会
- 1997 「中条町埋蔵文化財調査報告第13集 奥山荘城館遺跡調査報告第5集 江上館Ⅴ」中条町教育委員会
- 八川寿美恵 1978 「湖名を媒体とする地域考察—新潟県白根市の場合—」
- 安井 賢ほか 2001 「越後平野中央部・白根地域における完新世の環境変遷」『第四期研究』40-2 日本第四紀学会
- 山口栄一 1996 「城願寺と隣接民家跡」『巻町史 資料編 第1 考古』巻町
- 山本 肇 1996 「越後平野における弥生時代—中世の遺跡の立地とその変遷」『第四期研究』35-3 日本第四紀学会
- 吉岡康暢 1989 「総論 珠洲古陶」『珠洲の名陶』珠洲市立珠洲焼資料館
- 1994 「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 渡邊ますみ 1994 「緒立C遺跡発掘調査報告書」黒埼町教育委員会
- 1998 「第2章 原始・古代—緒立遺跡—第3節第3項奈良・平安時代の遺物」『黒埼町史 資料編1 原始・古代・中世編』黒埼町

報告書抄録

書名	平成16年度 白根市内埋蔵文化財発掘調査報告書 (付 平成13～15年度調査報告)				
副書名					
巻次					
シリーズ名	白根市文化財調査報告(3)				
編著者名	潮田憲幸				
編集機関	新潟県白根市教育委員会生涯学習課				
所在地	〒950-1477 新潟県白根市大字田中383 白根学習館内				
発行年月日	西暦2005年(平成17年)3月18日				
所収遺跡/調査区	所在地	コード		調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号		
北田中地区	白根市大字北田中字宮下 632-1番地ほか	15220	(試掘調査)	H13.7.18	中継ポンプ場の建設
前遺跡(戸頭・田中地区)	白根市大字田中字前66番地 ほか		16	H13.12.3 ～H14.8.8	複合大型店舗の建設
万年地区	白根市大字万年256番地ほか		(試掘調査)	H15.5.12.13	広域農道の新設
戸頭地区	白根市大字戸頭字村中729-2 番地ほか		(試掘調査)	H15.8.20	集合住宅の建設
上新田地区	白根市大字上新田字居廻1077 番地ほか		(試掘調査)	H15.11.17 ～H16.3.9 H16.12.15 ～12.21	工場および駐車場新設
新飯田地区	白根市大字新飯田仲作2542 番地ほか		(試掘調査)	H16.6.15 ～8.2	特別養護老人ホームの 建設
上下諏訪木地区	白根市大字上下諏訪木字論地 859-1番地ほか		(試掘調査)	H16.6.24 ～7.1	複合大型店舗の建設
大郷地区	白根市大字大郷堤外地		(試掘調査)	H16.8.4 ～8.18	堤防拡幅
白根地区	白根市大字白根字杉菜方 1081番地		(試掘調査)	H16.8.20	住宅地造成
拾参番割遺跡 (笑曾根地区)	白根市大字笑曾根字拾参番割 8540番地ほか		19	H16.11.22 ～11.24	駐車場新設
下塩俵地区	白根市大字下塩俵字土居内 935-1番地ほか	(試掘調査)	H17.1.25	河道掘削	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物
前遺跡	遺物包含地	中世	溝、土坑、ビット		珠洲焼、下駄
拾参番割遺跡	遺物包含地	平安	溝、ビット		土師器

白根市文化財調査報告書 第3集

平成16年度

白根市内埋蔵文化財試掘調査報告書

編 集：白根市教育委員会 生涯学習課

発 行：白根市教育委員会

発行日：平成17年(2005年)3月18日

住 所：〒950-1477

新潟県白根市大字田中383

白根学習館内

電 話：025-372-5533

印 刷：笹勇印刷株式会社